一票で変える女たちの会

かわらばん

第 36 号　2021 年 2 月 18 日 改訂

玄香実さんの問題提起を読んで―私にできることから― …… 伊東　輝
＜南北朝鮮とわたし＞7「ＫＣＩＡ」のこと……丹羽雅代
＜シリーズ・コロナ禍　災厄のなかにあっても＞
1. 映画　大コメ騒動を観て……坂元良江
2. プラゴミ問題は良心宣言として公表に値する ……小林　緑
3．集会はオンラインで……三井富美代
転載　ブログ「うちなぁ かな日記」から……みなもとひろみ
一票で変える女たちの会・Facebook から

玄香実さんの問題提起を読んで
―私にできることから―

伊東　輝

玄さんの問題提起について

まず、「かわらばん」35号に大切な問題を率直に書いていただいたことに感謝いたします。

提起された問題はもっともなことです。そして様々な問題について、例えば行政の外国人登録案内ブックにあった「帰化」という言葉に異議を述べ、その後「日本国籍取得」に改められたことをはじめ、阪神・淡路大震災のあと「被災者生活再建支援法」を成立させる市民＝議員立法実現推進本部の東京の事務局長をなさったことなどの行動力に敬意を表します。

このご投稿をきっかけに、多くの人と率直な意見交換をし、小さくてもできる行動をしたいと思い、以下に私が考えたことを書きます。

私の歩みは……

ちょうど一年前、かわらばん30号に私は「南北朝鮮とわたし」シリーズ1として「日韓・日朝の歴史を学ぶ」を書きました。そこで一九四五～一九五二年の歴史に特に注目しました（30号2頁）。

一九四六年一一月三日日本国憲法発布の後、一九四七年五月二日（施行の一日前）外国人登録令が出され、当時日本国籍を持っていた旧植民地出身者（朝鮮人や台湾人）を外国人とみなすことになりました。そのことに私は改めて衝撃を受けました。

その後「外国人とみなされた」人たちは、一九五二年四月二八日サンフランシスコ条約発効（日本の主権回復）と同時に制定された外国人登録法（注1）で「日本国籍を離脱した外国人」とされました。そし

て様々な制度的差別を受けました。一九九一年に特別永住者が認められ、一九九三年には特別永住者は指紋押捺義務免除になりますが、指紋押捺制度が廃止されたのは二〇〇〇年でした。

理不尽な扱いを裁判に訴えた例は少なくありませんが、例えばいわゆる元ＢＣ級戦犯問題もその一つです。裁判所は請求を棄却しましたが、国に然るべき給付金支給の立法を促しました。そして李鶴来（イハンネ）さんたちが議員に訴え続け（二〇〇八年民主党により法案提出されるも廃案）、二〇一七年に超党派で「特定連合国裁判被拘禁者に対する特別給付金の支給に関する法律案」の合意ができたのに成立に至っていません。原告たちが生きている間に解決してほしいと思います。

このようなことに関心を持ちながらも、玄さんが提起された参政権の問題に、きちんと向きあってこなかったことを反省し、今からでも向きあわねば、と思います。

在日外国人の参政権について

在日外国人の参政権について「参政権を持ちたければ日本国籍を取得すればよい」と言う人がいます。

しかし私はそうは思いません。ある期間日本に住み、納税もしている人には、外国籍のままで参政権を持つ機会が開かれるべきだと思います（国政への参政権については考えなければならない問題が多いので、今のところ地方参政権について、とします）。

そして外国人人権法連絡会の次の呼びかけにも署名しています。

〔永住資格を持つ外国籍住民に地方参政権を！ 永住資格条件居住歴一〇年以上を五年以内に！〕
http://chng.it/fGcB64MZ

最近読んだ次の本に、この問題について私が考えてきたことが的確に語られていたので、紹介します。

『談論風発―琉球独立論を考える歴史・教育・法・アイデンティティ』（前川喜平・松島泰勝編著　二〇二〇年　明石書店）[注2]「自民族中心主義からの離脱」211～212頁の前川喜平さんの発言

（前略）在日コリアンの問題にかんしても、参政権がほしいのだったら日本国民になればいいじゃないか、日本人になれという議論がある。しかし、私たちは日本人になりたくないというのが在日コリアンの気持ちです。民族としての日本人と国籍としての日本国民というのは、ほとんどアイデンティカルが同じになっているから、われわれは朝鮮人だ、だから日本人にはならない。そこで、日本で暮らしていくけれど、日本人にはなりたくない。日本人ではないのだから日本の参政権は持つべきではないという考えの在日コリアンも多い。民族性と国籍と参政権が、ほとんど一致している。これは日本人にもあることですが、在日コリアンにもあると思います。私は国籍とは別に参政権的なもの、ようするに一定の定住的ステータスをもっている人は、少なくとも地方参政権をもつとか、もし琉球が連邦共和国なのであれば、それぞれの島の自治的な組織のなかでは参政権をもつとか。段階があってもいいのかなという気がします。

（後略）

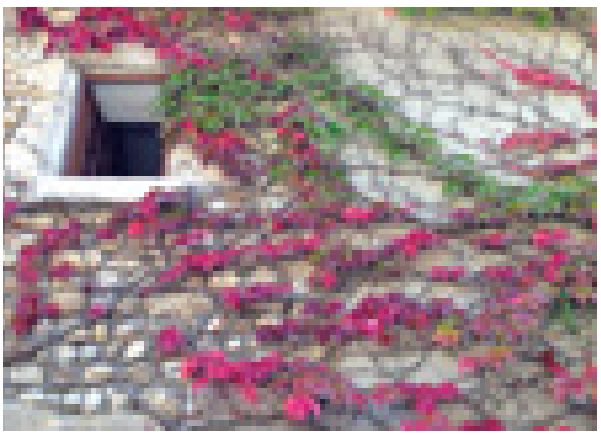
私も、多くの人とこのような意見交換をしたいと思います。

注1　外国人登録法は二〇一二年に廃止され、新たな在留管理制度になりました。

注2　この本全体では松島泰勝さんがパラオなどに住んだ経験も踏まえ、また沖縄の歴史も考え、広い視野で沖縄の問題を論じておられることに示唆を受けました。

ともに読んだ友人も「女性の問題について考える際にも、世界的な潮流の中で考えることが展望を開くのだと思った」と話していました。同感です。一読をお薦めします。

（二〇二一年一月三〇日）



シリーズ〈南北朝鮮とわたし〉7

「KCIA」のこと

丹羽雅代

映画「KCIA――南山の部長たち」を観た。

これは一九七九年一〇月に起きた「パク・チョンヒ（朴正熙。先の大統領だったパク・クネの父親）大統領がKCIA〔韓国中央情報部〕部長キム・ジェギュ（金載圭）に射殺された」という事件に至る四〇日間を扱った映画だ。歴史的事件を題材としたフィクションであると断りが入っている。

その主人公のキム部長を演じているのがイ・ビョンホン（韓国映画を見たことがないという方も、彼の名前くらいは聞き覚えがあるのではないか）。

映画の中のイ・ビョンホンはひたすらクール。大統領の最側近として安全を守り抜くのが最大の仕事だ。警護室長が張り付いているのだから、物理的な安全は任せてもよさそうだが、単に人を注意深く見るだけでなく、会議から団体の構造から、あらゆることに注意を向ける。彼が部長に就任する二年前の光復節では文世光事件があり、大統領は危うく難を逃れたものの、並んでいた妻が射殺されるというとんでもない事が起きているから、何があってもおかしくない。パク大統領を敬愛し、職務に忠実であることを超えて持てる力をすべてささげているキム部長は、大変な緊張感を四六時中示している。

その彼が三年間のKCIA第八代部長という立場から、ほかならぬKCIAを創設した大統領その人を射殺した。なぜか。

クールなイ・ビョンホン演じるキム部長は、自分の気持ちを語ったりはしない。表情を読み解くのは大変だ。彼の数少ない友人が登場する。第四代KCIA部長だったパク・ヒョンウクだ。彼は台湾を経てアメリカに亡命し、パク・チョンヒ政権がKCIAを使い、いかにひどい暴力的圧政をやり続けているのか（もちろん金大中氏を日本から拉致したのもその一つ）をアメリカの議会で暴露した。さらに回顧録も執筆中とのこと。その彼にパリに会いにいく。ほんのわずかの言葉のやり取りしかないが、何かが動いたのかもしれない。その後、友人パク氏は行方不明となり、消息は絶たれる。

また、キム部長は、露骨に大統領本人や警護室長らから、お前は仲間ではないという態度を示される。

もちろん様々な積み重ねが目まぐるしくあったうえでの選択だったのだろう。彼は、真夜中にほんのわずかの人しか知らない秘密の接待所の大統領のところに行き、銃口を向ける。一九七九年一〇月のこと。

KCIAの仕事は、暗部のみというわけではない。

初代部長はキム・ジョンピル（金鐘泌）。パク・チョンヒとともに一九六一年にクーデターを起こした軍人の中心人物の一人だ。

パク・チョンヒが政権を取ってすぐに創設したのがKCIA（韓国中央情報部）だ。初代部長キム・ジョンピルは、知日派としても有名であり、パク・チョンヒが殺害されたのちもずっと政界の最前線に立ち続け、金大中政権時代などでは、首相も務めている。

私がKCIAを強く意識させられるようになったのは、一九六五年の大学入学早々のことだった。四月末からの一週間の連休をどう過ごす予定かと自治会活動家の先輩から聞かれた。もちろん親のところに帰るつもりだったからそういったのだが、その週に重大な会議や集会があるという。日韓基本条約の話だった。韓国にかかわる情報というのは、全くと言っていいくらいわけがわからなかった。ソ連の後押しで共産主義を選んだ北（朝鮮民主主義人民共和国、以下共和国）がどんなに非道で、これに対して韓国は厳しく戦っているという話ばかりが新聞には載っていた。それらがすべてでっち上げであるという活動家の話は新鮮だった。だから連休合宿に参加したのだが、さっぱり理解できない。でも、民青学連事件や人民革命党事件などで多くの学生や民主活動家たちがK

各地で上映中

ＣＩＡに連行され、その中には在日の人たちもいたわけで、拷問を受け、やってもいないことを自白させられたり、殺されたりしているという話は、大きなショックだった。また締結を目前にしていた日韓基本条約（一九六五年六月二二日締結）に関する話も、難しくて意味が分からないことばかりだったが、少なくとも日本に重大な責任がある東アジアの現実を、きちんと変えていく側にいなくちゃ、ということはわかっていた。

私は中学二年生の時、親しい友人一家が事業をすべてたたんで、共和国へ帰った(行ったというべき?)という事実を受け入れがたかった。彼女とは手紙は一年間くらいやり取りしたが、そこですっかり途切れた。せめて彼女の暮らしている共和国が良い場所であってほしかった。だから分断を固定化する日韓基本条約成立には反対したいと思い、運動まみれの大学時代三年間を過ごした。最後は佐世保のエンタープライズ寄港反対運動。敗北ばかりだったけれど、得難い経験だったと思う。

卒業して子供を産み、教員生活を始めた。一〇年くらいたって暮らしが落ち着いてきたころには、韓国で獄中にある人たちへのクリスマスカードを出そうという運動があった。せめて差出人や宛名くらいはハングルで書きたい、手紙も書きたいとハングル講座に通った。残念ながらほとんど学習の成果は残っていないが、読むくらいはなんとかできる。これが本当に良かったと痛感したのは、八〇年に初めて韓国に行った時。光州事件のすぐ後だったが、ほとんど何も知らず、完全に手探りの女三人の観光だった。プサンから慶州、プヨなどを回ってソウルまで行った。乗り物もお店も、日本語の文字もアナウンスも全くなかった。何かで一人だった時にとっても困ったのだが、お店の人が哀れに思ってくれたのか、周りに誰もいないのを見計らって日本語で話しかけてくれた。とても助かったのだが、初めから日本語で話してくれればよかったのにとつい思ってしまって反省した。

夜九時になるとそれまでにぎわっていた山ほどの人々の姿が、あっという間に消えていくのを、茫然とホテルの窓から眺めていたことを妙によく記憶している。

さて、パク大統領が射殺された後、二か月もたたないうちにチョン・ドファン(全斗煥)が軍事クーデターで実権を取る。八〇年五月には光州事件が起きた。運動鎮圧のため、軍隊が派遣され、多数の人々が虐殺された。事実がはっきりわかるまで、かなり長い時間が必要だった。

ＫＣＩＡは安全企画部へと名前を変えたものの、活動が続く。しかしその活動それ自体が民主化運動を恐怖政治で閉じ込めようというもののゆえに、人々の批判の的となり、九四年、国家情報院に組織再編され、南山の建物は、現在はユースホステルとなっているという。

民主化運動の中で何が起きていたのか、ＫＣＩＡが果たした役割はどうだったのかなど、まだまだ明らかにはなっていないことも多いが、この映画のおかげで、さまざまなハチャメチャ旅行などが思い出された。

シリーズ・コロナ禍

災厄のなかにあっても

1 映画　大コメ騒動を観て

坂元良江

時の内閣を退陣に追い込んだ大正の「米騒動」は日本史上の一大事件として人々によく知られている。しかし、それが富山の女たちが「もう我慢できない、負けんまい！　やらまいか！」と立ち上がって始まったことはそう一般的な知識になっていないのではないだろうか。今でこそ中学の社会科でも米騒動は富山の女たちが立ち上がったのがきっかけと教えるが、一方で地元富山でも米騒動を〝負の歴史〟ととらえる風潮もあるとのことだ。「民主主義の第一歩となった歴史的大事件での女性たちの行動をどう評価するべきか改めて考えたい」というシンポジウムが女性たちによって開催されたりしている。

大正七年（一九一八年）ロシア革命に干渉するためにシベリア出兵を決めた日本では戦争に備えて米の大規模な備蓄が始まり、高騰を狙っての買い占めが横行、米の価格が急上昇、庶民たちは飢え寸前の暮らしを強いられていた。女沖中士や沖中士の女房たちなどが米の県外への積み出しを船の出る浜で実力で阻止し、役場や米を売る豪商の店に押しかけるなどの激しい行動に出ると、新聞は「越中女一揆」と報道、これをきっかけに全国に米価引き下げを要求する集会や米屋襲撃などが広がって行った。

寺内内閣は〝暴動〟の鎮圧に軍隊まで出動させ、国庫から多額の非常支出をして米の強制買い上げを行い、安い米を売ると同時に、新聞に対して各地の米騒動を一切記事にすることを禁止した。新聞記者団は政府を弾劾、世論は寺内内閣退陣を要求、寺内内閣は退陣した。

歴史上のこれだけの大闘争を「女が騒いだ」レベルに矮小化する風潮があったのは富山県民が「全国に恥をさらした」「負の歴史」ととらえ詳細を語り継がなかったからともいわれている。最終的には大きな役割を果たした新聞も最初は「越中の女一揆」とセンセーショナルな扱いでしかなかった。

映画「大コメ騒動」はあくまでも当時の富山の女たちの立場に立って、彼女たちが立ち上がり闘った姿をコメディータッチで描いたものだ。貧しい女沖中士たちは米問屋の倉庫から一俵六〇㌔の米俵を背負い浜に運び日に二〇銭を稼ぐ。米一升の半分しか買えない賃金だ。当時肉体労働の男たちは日に米一升を食べていた。米俵は沖に待つ船で遠く売られていく。町の有力者や米商人はいい生活をする一方で庶民たちは一升四〇銭を越えた米など買えるわけもなく飢え寸前となりとうとう我慢の限界を越える。

浜で米の運び出しを全身で実力阻止する女たち、米の値上げに抗議し、安く米を売るようにと米屋に大挙して押し寄せる女たち、女たちの姿はあくまでも逞しい。寺子屋で学ぶ子どもは「なんでオラっちゃは、いつも腹が減っとるんですか？　オラの母ちゃんは、毎日朝から晩まで一生懸命働いてくれとります。そんでもオラっちゃは、おからしか食べられないん。なんでですか」と女教師に疑問を投げかける。貧しさに耐えかねた少年が「兵隊になってシベリアへ行き、かあちゃんやばあちゃんを食べさせる」と言えば、母は「兵隊には絶対になってはいかん、行かせない」と厳しく言い、祖母は「お前に兵隊になって養ってもらうほど落ちぶれていない」と諭す。町の有力者の妾だった女は「男に頼って生きることはやめた」と仕事を得て町を出て行く。脚本家谷本香織の脚本には女性ならではの言葉が並ぶ。プロデューサーは岩城レイ子、本木克英監督は富山県出身、制作者たちの意思がはっきりと伺える。

夫をいつ帰るともしれない出稼ぎに送り出し、三人の子ども、姑と暮らす女沖中士を井上真央が熱演し、富山県出身の女優、室井滋、左時枝、柴田理恵のほか、毅然とした

各地で上映中

姑役夏木マリの胸のすく演技、子どもたちに真摯に向き合う女教師役工藤遥など女優たちは役を演じているというより、闘う女たちになりきっているようで爽快だ。

ますます貧富の差がひろがり、中でも女性たちが弱者であることが改めて歴然とし、今だに旧態依然の男社会に生きる女たちが一〇〇年前の逞しかった女たちに自分たちを重ねて精一杯闘った映画のように思えてならない。

「大コメ騒動」パンフレットより

2 プラゴミ問題は良心宣言として公表に値する

小林　緑

35号で「歴博『ジェンダーの日本史』展に鑑みて」を寄稿させていただいたことから、有難いご縁が生まれました。該当号発行後に、石井筆子に関わる新しい図書が道徳教科の副読本として発行されていた、という驚きの事実を知り得たのも、「かわらばん」のおかげです。この件を追記した私のNPJ通信の連載記事「クラシック音楽は超男性世界!?」七三回が、先日（二月四日）にアップされましたので、詳細はそちらをご覧ください。（http://www.news-pj.net/news/495）

さて、以下は35号の最後に、切羽詰まった想いを「付け足し」として書き加えてしまった内容です。この部分は次回まわしに、と編集担当からご提案ありましたので、とりあえず、まずはそれを再掲させてください。

目下私が何より切迫したテーマとして意識しているプラゴミ問題について、「週刊金曜日」などで編集人として執筆されている往住嘉文さんの呼びかけに応じた「良心宣言」（二〇一八年夏）という一文を御覧いただきたいのです。

「良心宣言」とは、世の中のおかしいことには本心を曲げず、モノ申す事。

私にとって、その「おかしなこと」の極めつけは、プラスチックごみ問題です。〝ギゾー、ネツゾー、アベシンゾー〟率いるこの国――今やアベ居抜きガースー政権ですが――は、おかしなことだらけ、それもえらく難しい、手に負えない事柄が山積しています。でもプラゴミのことなら、誰でも解決への具体的な一歩をすぐ踏み出せるもの……のはずです。

まずペットボトルを買うのをやめましょう。いまさら何を馬鹿な！と大顰蹙なのは覚悟の上です。しかし連日国会へのデモ、地元の選挙運動、そして本業の『女性作曲家』拡散活動を続ける間も、私自身、ペットボトルのお世話にならずともまったく無事です。どうしても水が必要になる、と思えば、手持ちの水筒を活用しています。レジ袋、自販機、テークアウト、ケータイ電話、各種IT装備……これらプラゴミ爆産の源も、実は一九七〇年代始めにはまだごく珍しいシロモノでした。フランス留学生だった当時、食糧などは買い物籠、鼻をかむのはハンカチ、洗濯は滅多にせず、料理に流し水は禁物、ホテルの廊下は一分間で自動消灯 minuterie の優れものが……華のパリがなんとつましい！ 使い捨てをとことん排したこのライフスタイル、今やさらに鮮烈に蘇ります。でも当のフランス人にはそれが当たり前、自分たちが素晴らしいことをしている、という意識もないようでした。

実は日本人もそうだったのでは？ 七年ほど前からケアハウスに入居中の母が、電灯はつけなくていい、トイレの紙は流さない、洗浄水も毎回流すな、入浴は月一程度でよろしい、などとスタッフを困らせながらも、口から食べるという最低限の健康体でいられるのは、人間として当たり前の節度を守ったからでしょう。戦前・戦後を通じ、暴君の夫と五人の子供の世話に明け暮れつ

つ一〇二歳の今に至るその姿は、わが母ながら、実にあっぱれ！と誇らしいです。

閑話休題。レストランで供されるプラ袋に包まれたお手拭きを断るのも、実に簡単なプラゴミ削減法。最近目にあまる歩きながらのストローつき飲み物も絶対止めて！世界六〇ヵ国以上がレジ袋や発泡スチロール製食器などの生産禁止や課金の制度を取り決めた（2018/6/30東京新聞朝刊）というのに、日米だけはそれに同調しなかったという。核拡散条約を批准せずと同じくここまでアメリカに追従しようとは……海の恩恵を享受している日本こそ、率先してプラゴミによる海洋汚染防止に取り組むべきでしょうに。

放射能汚染水を海に流そうとまで企むこの国の為政者を相手にしているヒマはありません。ところが女性の仲間でもペットボトルやお手拭きの問題を持ち出すと、喧嘩になってしまいそうなのです。常識、普通がいかにまがい物か……でも私は諦めません。プラゴミ問題は良心宣言として公表に値すると信じているからです。

「付け足し」の付け足し、お許しください――さて、問題の母は昨年二〇二〇年三月二三日、一〇四歳まで一二日を残し「老衰」のため死去しました。けれど最後の朝も口から食していたそうです。コロナ禍爆発の少し前でしたので、かろうじて親族だけで葬儀を済ませることができ、母のためにもよかった……と安堵した次第です。

それにつけても節約のお手本だった母を想うにつけ、「母」と「海」という言葉と文字をめぐる不思議を考えさせられます。つまりLa mer/La mère＝海／母ということ。

フランス語は、海と母の発音・音韻が同じ（ラ・メール）で、アルファベットも共有しています。改めるまでもないのですが、名詞にいちいち性別をつけねばならないフランス語では、海も母も、ともに女性、とされているのです。でも、そんな決まりがない日本語でも、海の字の中に、母が含み混まれているではないですか！

言うまでもなく海とは万物の源を産みだす命の母です。であるのに、目下のもっとも深刻な人類の脅威が海洋汚染なのです。でも、プラごみを無くそうという、企業も市民もその気さえあれば解決可能です。放射能や地震とはわけが違います。一時代前の自然に還る素材での包装を、みんなで協力して実践しましょう！

直近で得た情報も二点、付け加えます。

・2020/11/28「報道特集」プラごみ問題＝中国のドキュメント映画紹介。日本よりも中国の方がよほど進んでいる！

・2020/11/29「サンデー・モーニング」日本大手企業も対策に着手!?

◎ここからは二〇二一年二月七日の「付け加え」です。

地元杉並でも、数名の区議さんの発案で、「はじめよう、脱プラスチック生活！」の勉強会が、二〇二〇年一二月一二日に阿佐ヶ谷地域区民センターで行われました。もちろん万難を排して参加。講師が容器の３Ｒ（reduce, reuse, recycle）を進める全国ネットワーク運営委員長という肩書の中井八千代さん。キビキビ、感じよく話されて、頼もしいと思いましたが、大企業でもリユースやばら売りの試みが始まっているから希望がある、との結びに？？？ ここで黙っていたら何のために参加したのか、と奮い立たせ、アンケートに、「大企業がやっているといっても、零細や個人企業ではお金がないのでできないからこそ、困っているのに」と書き込みました。参加者はそれぞれの思い入れが強くて、私の意がきちんと伝わったかどうかは、残念ながら不明。でもワークショップのテーブルで隣り合わせた女性は、チェーン店のお寿司屋さんに、持参のお弁当箱に入れて、と頼んだら、渋々ながら対応してくれた！と発言されたのです。あとで名刺交換してわかったのですが、常日頃、いくつもの容器を持ち歩き食品ゴミの削減に注力しつつバンドネオンを弾く

活動もしているとか……音楽仲間でプラゴミ意識を共有できるなんて、滅多にありません。それも含めて、この日は実にありがたい機会となりました。

関連してもう一件。プラスチックと環境ホルモン研究の第一人者で、上記中井さんが師と仰ぐ東京農工大教授の高田秀重さん。そのお名前は落合恵子さんが主宰するクレヨンハウス発行の月刊誌〝いいね〟39号「さよならプラスチック生活―すぐにはじめてください」（2018/9/5）を通じて初めて知ったのですが、お連れ合いが日本科学者会議のメンバーでもいらしたことから、一気に身近に感じられることとなったのです。

二〇一九年一一月二三日、私も末席に連なる日本科学者会議の発案で、「調和の響きを織りなす女性たち」と題したサロン・コンサートを企画・実施した際の参加者に高田姓の女性の名前を見つけたことが発端でした。「誰もが幸せに暮らせる住まい」をテーマに多面的な活動を展開されている科学者会議事務局の中島明子さんに「この方は……？」とおたずねしたところ、やっぱり！建築家で、あのプラ問題で有名な先生のパートナーと判明したのです。ここでも女性作曲家が想定外の橋渡しをしてくれた……本業の女性と音楽の研究が、部外者ながら無視できずにいる社会・政治問題と乖離しているんじゃないかと、内心びくついている私が、胸を撫でおろした一幕ともなりました。

最後に、上掲〝いいね〟にプラフリーのアイデアを披露されたお一人、服部雄一郎さんに触れないわけにはいきません。通販でも「緩衝材お断り」など、生活のあらゆる面でエコを実践、二〇一九年には脱プラ入門決定版『プラスチック・フリー生活 Life without Plastic』の翻訳を完成、NHKから出版されました。私もコロナ禍で巣ごもりを強いられれば、テークアウトのプラ食器が爆産される……と危機感を募らせるばかりですが、果たして……あのノーテンキ極まりないNHKニュースでも、緊急事態宣言に関連してこのプラゴミ問題をとりあげていました。でも相変わらず、国会その他の会議場で堂々とペットボトルがおかれている場面を見るにつけ、モリJOC会長の女性蔑視発言同様、この国全体のレヴェルが世界最低、と嘆かずにいられません！

本書を著したカナダ人夫妻（シャンタル・プラモンドン＋ジェイ・シンハ）は、生まれた息子に、哺乳瓶から始まるプラまみれの生活を強いるのは絶対イヤ！と思ったから、と、執筆の動機を打ち明けていました。近代人の生活のあらゆる場面に浸透してしまったプラスチック（高田さんによると、江戸時代の地層からはその痕跡は出てこないということ）―本書で夫妻はプラスチックとは一体何か、その危険性の解説、代替品の提案まで、懇切丁寧に漏れなく詳細に記述しています。まさに目からウロコのガイドブック！

でも決して絶望しないで。今すぐできることから始めれば、プラゴミの八割は減らせる、と励ましてくれてもいるのです。おまけにカナダとは数周遅れの意識で、ばら売りの店などなかなか見つからない日本の現状に即して、あの高田さんが特別に解説文を寄稿されています。巻末の「プラスチック・フリーで持続可能社会を」をお見逃しなく！そして最後の訳者あとがきも……町役場でゴミ部署勤務を経験した長谷川さんは、住民の希望と反発の板挟みに悩みながらも、結局は変化を生みだすマインドが大事、と実に丁寧に説明されています。「どうせゼロにならないのだから」「一人が減らしても焼け石に水」ではありません。「プラスチックを減らしたい住民がここにいます」「賛成です」「待ってます」という気持ちを行政に伝えることが、波動を発する原動力になる、というのです。

随所にかわいいイラストが挿入され、訳文もとてもリズミカルで楽しい。服部さんご自身がつぎつぎアイデアをお持ちだからこそ、こんな素晴らしい仕上がりになったのでしょう。ともかく、一人でも多くの方が実物を手にしていただきたい……そして、男も女も、みんなで〝わきまえない〟人になりましょう！

（二〇二一年二月七日）

3

集会はオンラインで

三井富美代

映画やドラマはネット配信で、会議や打合せはリモートで、集会・セミナーはオンラインで、という生活にすっかり慣れたこの頃です。少しは動かないと肥えるばかりなので今のうちに土作りしようかと、畑を耕してみます。でも、不耕起の自然農法がよいのだと聞くと、何もしない方がいいのかなと怠け心がささやいてますます肥える方向へ。

さて、オンラインの集会やセミナーが増えて、田舎暮らしの身にはとても助かっています。臨場感には欠けますが、交通費がかからず時間の自由がきくのはありがたい。

先日の森喜朗女性差別発言の直後に速攻で流れた「Don't Be Silent! #わきまえない女たち」は、とても良かった。司会の永井玲衣さん、ゲストの安田奈津紀さんはじめ二四人の、七〇代からみればエネルギッシュな若手の女性たちはみんなまぶしく、ああ日本もこんなふうに変わっていくんだと希望をもらいました。

この集会はChoose Life Projekctという「テレビの報道番組や映画、ドキュメンタリーを制作している有志で始めた映像プロジェクト」の番組の一つで、youtube（Google LLCが提供する世界最大の動画共有サービス。Youは「あなた」、Tubeは「ブラウン管」という意味である。出典・ウィキペディア）で配信されている、ということらしいです。らしいというのは、理解がおぼつかないから。私の生活はもう、グーグルとアマゾン、アップルなしには成り立たなくなりつつあるとおそろしい。それにしてもカタカナとアルファベットばかりです、この世界は。

Choose Life Projekctはとても社会感覚の鋭いところで、女性問題も社会問題も次々取り上げてくれています。Dialogueという番組も面白く、Vol.1は、最近話題になっている「人新生の資本主義」をテーマのシリーズを続けています。

Peatixという「世界中のイベントが集まるイベントプラットフォーム」というベンチャー企業運営のサイトもあり、有料のオンラインセミナーなどによく使われています。私は梁永山聡子さんの「「聡子の部屋第一四回「原発事故は誰の問題なのか？」吉田千亜（フリーライター）」に申込みました。梁永山聡子さんのことはふぇみ・ゼミ（ジェンダーやフェミニズムについて考え、実践してきた研究者たちの集まり）の緊急企画「#metooと民主主義　草津町リコール問題から」で知りました。

Wam（アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」）主催のセミナー「天皇制を考える」シリーズもリアル会場には行けないので、後のオンライン配信も期待しています。関心のある方は、https://wam-peace.org/news/でチェックしてみてください。

ネット番組では、「デモクラシータイムス」をスマホでよく聞いています。新聞やテレビでは聞けない情報やニュース解説があるのが魅力。東大先端科学技術研究所の児玉龍彦教授のコロナ問題の説明はとても冷静で納得がいくなと思っています。いちばん面白いのは、佐高信さんの「3ジジ放談」。きつい冗談の連発が楽しみで毎月聞いています。

「西谷文和の路上のラジオ」、青木理さん、前川喜平さん、小出裕章さん、望月衣塑子さんらがよく登場されています。

テレビ番組を後から見ることができるのも、ネットの利点。NHKの良心とも言えるさまざまなドキュメンタリー映像や「百分で名著」など、見逃した番組、録画しそこねた番組がyoutubeやオンデマンドで見ることができたりと、私も遅ればせながら利用しています。「愛の不時着」とか、ネットで韓流ドラマは、はまるのが怖くてまだ手を出していませんがその日は近いようで……。

https://www.nuchigusui-kikou.com/

沖縄は遠い。コロナでさらに遠くなってしまった。様子を知らせてと書いたら、ブログを転載していいよとすぐに答えてくれたのが**みなもとひろみ**さん。基地・軍隊を許さない行動する女たちの会の 95 年立ち上げからの中心の一人。彼女たちは、日本の敗戦後からの米兵による性犯罪をずっと記録している。更新しなくてはならないのが悔しい。みなもとさんは週２回くらい早朝から辺野古に座り込みに出かけ、その様子を「うちなぁかな日記」で知らせてくれる。大変なばかりではないのだよと、すばらしい花だよりも。皆さんにも沖縄をぐんと近くに感じてほしく、一部を転載。

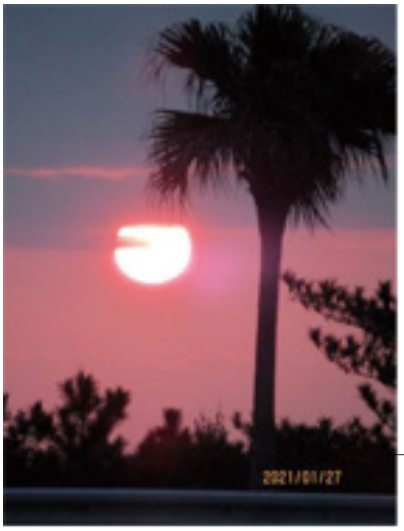
自衛隊来るな！

今日（1月27日）の辺野古

緊急事態宣言中は組織的な抗議行動は休止となったが、それでもやってくる人たちの対応と、工事車両のチェックのため、それぞれの曜日担当の責任者は現場に行かなければならない。

水曜日は平和市民連絡会の担当なので、リーダーのお供で辺野古へ向かった。

まるで初日の出のような太陽を拝みつつ自動車道を走る。いつもより30分も早く辺野古へ到着。テント横の花壇の花々が清々しく出迎えてくれる。



8：30を過ぎると続々といつものメンバーが集まってきた。埋め立て資材を積んだダンプや生コン車を、むざむざと素通りさせるわけにはいかない。そんな思いが誰の中にもあるのだろう。

マイクも、スピーカーもなく、10数名が、ただ黙々と座り込む。

島袋文子さん、大城敬人さん（名護市議）もゲートの向かいから抗議行動を見守った。

2回目の12：00、3回目の15：00も密を避けて十分に間をあけ、それぞれに工夫しながらの抗議行動。

2回目からは、マイクなしで歌も歌い、「自衛隊いらない！自衛隊来るな！」と声をあげた。

私たちはただ自然の生き物たちとともに安心して平和に穏やかに暮らしたいだけ。ただそれだけ。

不屈の座り込み2397日目の辺野古から。

「いのちの声」を聴け！

今日（2月3日）の辺野古

立春の沖縄は、暖かだった昨日に比べて少し冷たかった。（と言っても最高気温一九度）宇宙的には、今日の立春から新しい年のエネルギーが本格的に始まるのだという。

春を象徴する桜の花も北部・やんばるではピークを過ぎ、桜祭りも一月末で終了。南下してきた桜前線は、中南部で今週末満開を迎える。沖縄の桜は寒緋桜、うつむき加減に咲くのが特徴だ。

今日も仲間の車で辺野古へ向かう。

辺野古に着くと新しい横幕が掲げられていた。東京と沖縄在住の二人のアーティストによるコラボ作品だという。ジュゴンや色鮮やかなサンゴに熱帯魚、ヤンバルクイナ、亜熱帯の花々や植物たち、そして祈りをささげる琉球の女性を描き「いのちの声」とメッセージが添えられた。作者は、「土砂の下敷きになっても声もあげられない生き物たちの思いを表現したかった」という。この国の為政者たちは「いのちの声」など、聴く耳は持っていないようだ。

せめて私たちだけでも「いのちの声」を聞き取ろうと耳を澄ませていると、突然激しい金属音が響いた。米軍の弾薬運搬車と民間車両が衝突した瞬間だった。みんなが美しい絵の横幕に見入っている真ん前、ほんの数メートルも離れていない。

数百メートル先に辺野古弾薬庫がある座り込み現場は、毎日火薬類を運ぶ危険な米軍車両が何度も通る。「事故を起こしたこの車がもし爆発物を積んでいたら！」と思うと身の毛がよだつ。

基地の島沖縄は至るところこのような危険と常に向かい合わせの生活を強いられている。

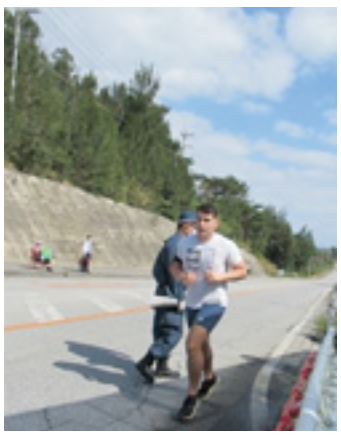
朝からとんだハプニングに遭遇した。

気を取り直して、ゲート前に抗議の座り込み、抵抗の一日が始まった。

列をなす工事車両は、北から右折で入ってくるだけでなく、南側にもダンプが並ぶ。今日も9時の一回目一〇〇台近く、12時の二回目、六〇数台が入った。

水曜日の名物・ランチバイキング。みんなの弁当を持ち寄ると、ちょっとしたレストラン並みの豪華バイキングになる。特に料理好きの方（男性）がいて、一人で何品も作ってきてくださる。いつも楽しいランチタイムだ。

私たちの目の前を走る米兵。お気づきだろうか。四人が駆け抜けたが誰ひとりマスクをしていない。一月二〇日に、辺野古基地の米兵の間で四三名以上のクラスターが発生したばかりと言うのに。反省のかけらも見えない。



両手に杖はついても
今日（2月10日）の辺野古

6:50那覇を出るときは「暖かい！」と思ったが、午後少し過ぎるころから、陽が陰って風が冷たい今日の辺野古だった。

当初2月7日までとしていた県独自の緊急事態宣言が2月いっぱいまで延期となり、辺野古の抗議行動も休止が続く。今日も水曜日担当の責任者を中心に、十数人から20人余で一日3回、少人数で座り込んだ。

年に数回、東京から辺野古へ通うこの方は、両手に杖をついても、みんなと一緒にゲート前を歩き続ける。

今日も列をなしてやってくる生コン車、埋め立て資材を運ぶダンプの様子が少し変わった。先週から先導してくる県警のパトカーの姿が見えなくなったのだ。県民の批判が多かったのでやめたのだろうか？

しかし、先導はやめたが、相変わらず2台のパトカーが一日中基地内に待機している。一台に2名ずつの警官を詰めて。

こんな鉄の資材が、あの青い海の埋立てに投入されているのだと思うと、涙が出そうになる。90㍍にも及ぶ軟弱地盤で、完成は不可能だと言われる難工事。もし中止！となったときに、このようなものを掘り起こして取り出し原状回復はできるのか、いったい誰が責任をとるというのだろうか！！

帰り際に辺野古ヤギの夏子ちゃんたちに会いに行った。三つ子のうち2匹は、高江の農家にもらわれていったそうで、残った一匹と夏子ちゃん親子が仲良く迎えてくれた。

----------FBから----------

新聞、テレビなどでは扱われなかったり、小さくしか載らない大事な情報が、フェイスブック（FB）やツイッター、インスタグラムなどのSNSで迅速にかつ詳しく伝わってくる。中に混じってくるフェイクや裏付けのない情報をはねのけて、しっかり世界で起きている出来事に目を向けていきたい。メディアでは新型コロナのニュースに覆われた感があるが、そのほかにも大きな問題が進行している。会のＦＢから抜粋して紹介。

＊記事中のＵＲＬまたは写真をクリックするとリンク先に移動します。移動しないときは、印刷版の場合は、太字のタイトルで検索してください。

FB投稿日（逆順）

2/12　「新井祥子元草津町議を支援する会」が立ち上がりました。ぜひ、参加して支援を！

この度、中澤康治草津町議会議員を代表とし「新井祥子元草津町議を支援する会」を立ち上げました。（新井祥子元草津町議員を支援する会）

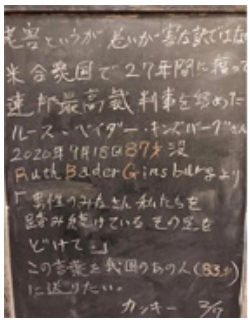
2/12　しかも辞任した人が後任を指名。変わるわけはない。

＃五輪をどうする　有森裕子さん警告　森氏辞意「会長交代だけでは同じこと起きる」（毎日新聞）2月11日

……特に東京大会は夏季五輪史上初めて男女平等の理念も含まれる「SDGs（持続可能な開発目標）」への貢献を掲げている。多様性の尊重を日本社会に根付かせる目的があった。今回の森氏の発言はその理念に逆行していた。森氏は、今日の社会への共感と五輪の理念を理解しているかどうかが問われていた。だからこそ「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」という今回の発言だけを撤回すればいいという理解では不十分だった。この課題は、森氏だけでなく、組織委など関係する組織全体にも突き付けられている。東京は、五輪の理念を理解したからこそ、大会を招致したはずだ。だとすれば……
https://mainichi.jp/articles/20210211/……

2/8　恐れるのはウイルスであって患者ではない

日本社会にはびこる「コロナ差別」の原因は政府の感染症対策だ！　ハンセン病専門家が怒りの声……新型コロナウイルスに感染し、自宅療養中だった都内在住の30代女性が自ら命を絶った。自宅療養者の自殺という悲劇の根底にあるのは、コロナ患者への「差別と偏見」だ。AERA 2021年2月8日号から。https://dot.asahi.com/aera/2021020400012.html?page=1



2/8　東京は西荻窪の「かきぞえ食堂」。お近くの方はぜひご贔屓に！（森喜朗氏女性差別発言をめぐっての投稿）

杉並区西荻窪にある「かきぞえ食堂」の黒板（東本さんのＦＢ）2月7日

（黒板の文字）『老害というが，老いが害な訳ではない。米合衆国で２７年間に渡って、連邦最高裁判事を努めた、ルース・ベイダー・ギンズバークさん (2020年9月18日87才没) Ruth Bader Ginsburg より「男性のみなさん，私たちを踏み続けているその足をどけて」。この言葉を我が国のあの人 (83才) に送りたい。カッキー　2/7

2/8　ただいまライブ中。後からでも視聴ＯＫ

緊急企画「Don’ t Be Silent ＃わきまえない女 たち」（Choose Life Project）2月6日

「女性がたくさん入っている理事会の会議は時間がかかる」「私どもの組織委員会には女性は７人くらいいるが、みなわきまえている」。東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長の女性蔑視発言……なぜこうした差別発言が生まれ、それが許される社会であり続けるのか、もう変えていこう、という思いを込めて議論していきたいと思います。総勢25人がリレー方式で話していきます。【出演】MC永井玲衣（哲学研究者）ゲスト　能條桃子（一般社団法人NO YOUTH NO JAPAN代表）、小島慶子（エッセイスト）、笛美（会社員）、岡野八代（政治研究者）、北原みのり（作家・フラワーデモ呼びかけ人）、太田啓子（弁護士）、辻愛沙子（株式会社arca CEO）、 安田菜津紀（D4P/ フォトジャーナリスト）、望月衣塑子（新聞記者）、ほか

1/29　札幌市教育委員会がようやく加害者教師を懲戒免職に。当初は処分を見送っていた。女性が実名で性被害を訴え裁判で認められたことを受けて。弱い立場の教え子に長年にわたり性暴力をふるっていた教師がなぜ迅速に処分されないのか
20 年以上前の生徒へのわいせつで教員免職　高裁判決受け、行為認定　札幌市教委（毎日新聞）1 月 28 日
https://mainichi.jp/articles/20210128/k00/00m/040/133000c

1/26　永住資格を持つ在日外国人に選挙権を！
今すぐ賛同しよう　永住資格を持つ外国籍住民に地方参政権を！　永住資格条件居住歴 10 年以上を５年以内に！（Change org）
……どれだけ日本に長く住んでいても、外国籍住民は自分たちのことを決めたり改善したりするときに自分の力ではそれができず、他の人にそれをお願いするしかない立場です。自分たちのことは自分たちで決めたい……納税の義務をはじめ、外国籍住民であることで免除される義務は一つもありません。外国籍住民に義務だけではなく権利も認めていくのでなければ不公平です……外国籍住民は「制度や法律、規則を守る / 守らされるだけの存在」から「制度や法律、規則をつくる存在」へ、「ともに社会をつくっていく存在」へと変わっていく必要があります。外国籍住民を「してもらう存在」から「みずから決定し行動する存在」へ。それこそがダイバーシティであり、多文化共生のめざす姿なのです！

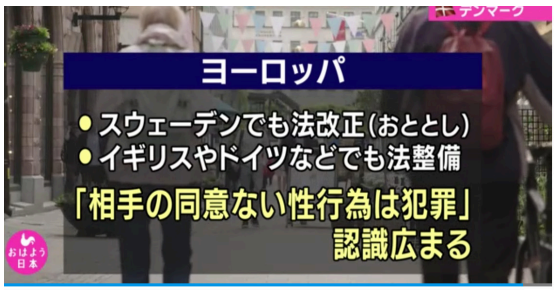
1/25　FGM を逃れてナイジェリアから日本に来たエリザベスさん。自らも入管に２度も収容された。難民申請するも認められず、強制送還の恐れを抱えながら、入管の長期収容で心身とも傷つき苦悩する人々に面会し励まし続けている。私たちの国日本は、何と冷酷で人非人の国なんだろう。
NHKETV 特集「エリザベス　この世界に愛を」（NHK オンデマンド、または YOUTUBE　で視聴可能）

1/16　第 11 回 マイ・フレンチ・フィルム・フェスティバル が開幕。2 月 15 日まで。短編映画は無料で視聴できます。
https://www.myfrenchfilmfestival.com/ja/　（2 月 15 日以降の視聴については不明ですが、https://www.youtube.com/user/unifrance でチェックしてみてください）

12/26
【はしか緊急支援にご協力ください】（国境なき医師団 日本）12 月 23 日
世界最大のはしか流行を受け国境なき医師団は活動を開始。コンゴ民主共和国で「はしか」が大流行中。2019 年、はしか感染者が 31 万人を超え、6000 人以上が亡くなりました。国境なき医師団は現地で対応にあたっています。どうぞ人びとの命を救う活動を支えてください。https://www.msf.or.jp/em_hashika/……

12/21　……水や石ころから生物まで全部が関係しあった自然の中に私たちの命があると思います。その自然の中にはウイルスも細菌もいる。そういうものとの関係性の中に我々人間がいて、自然に抵抗力がついたりする。それがコロナ禍におけるファクターXかもしれませんね……大熊孝さんのインタビューより
河川工学の重鎮が警鐘「経済優先の自然観からの転換を」（nikkan-gendai.com）12 月 21 日
　今年７月、６０人を超える死者、行方不明者を出した熊本豪雨。今回の水害は「人災」だと言われている。それは球磨川治水を巡って、同県の蒲島郁夫知事が２００８年に川辺川ダムの建設を止めたからだ。蒲島知事は１１月になって一転、建設容認に舵を切ったが、ダムを造れば「水害」を防げるのか。そんな単純な話ではない。「民衆の自然観を破壊してきた国家の自然観の見直しが必要」と河川工学の重鎮は警鐘を鳴らしている。
https://www.nikkan-gendai.com/articles/view/life/282821……

12/20
デンマーク 相手の同意ない性行為 違法に（NHK ニュース）12 月 21 日



北欧のデンマークでは、性的暴行の被害があっても加害者が罪に問われない事例があるとして、相手からの同意がない性行為を違法にする法律の改正が議会で承認されました。ヨーロッパでは同様の法改正の動きが進んでいます。デンマークの法律では、これまで、性的暴行の罪に問う場合、加害者による暴行や脅迫があったことや、被害者が抵抗できない状態だったことが立証される必要がありました。これについてデンマーク政府は、性的暴行の被害があっても加害者が罪に問われない事例があるとして、相手からの同意がない性行為を違法にする法律の改正を決め、17 日、

議会で承認されました。法律は来月 1 日に施行される予定で、デンマークのヘケロップ法相は声明で、「両方の当事者が性行為に同意しない場合、それがレイプだということが明確になった」としています。ヨーロッパでは、北欧のスウェーデンでもおととし、同様の法改正が行われたほか、これまでにイギリスやドイツなどでも法整備が進んでいて、「相手からの同意のない性行為は犯罪だ」という認識が広まっています。

12/20
琉球新報が分厚い取材。あのとき爆発した熱い（しかし必要以上の犠牲を出さない冷静さを伴った）「沖縄の怒り」。ヤマトンチュは「怒り」を共有できるか？（yuriko Kondo 労働組合つぶしの大弾圧を許さない実行委員会さんの FB）
12 月 20 日
基地の街を包んだ怒りの炎「コザ騒動」（琉球新報）
　1970 年 12 月 20 日未明。沖縄県コザ市（現沖縄市）で、5 千人もの群衆が米軍関係者の車両およそ 80 台を焼き払う事件が起こった。「コザ騒動」として語り継がれる一夜限りの出来事。怒りの炎に照らされた基地の街には、やり場のない叫びが響いた。　「沖縄はどうしたらいいのか。沖縄人も人間じゃないか」激しい地上戦が繰り広げられ、県民の 4 人に 1 人が犠牲になったとされる沖縄は、戦後も米国による統治が続いた……

12/20

今から 50 年前の 1970 年 12 月 20 日、ベトナム戦争の最中、沖縄県旧コザ市（沖縄市）でアメリカ軍兵士が交通事故を起こしました。事故を起こした米兵を拘束せずに基地へ帰した米軍憲兵隊に対して地元の人々が抗議すると、威嚇射撃をしました。沖縄戦以降、アメリカ軍は支配者として沖縄に君臨しました……今年で発生から 50 年の月日がたったコザ騒動を、NHK の ETV 特集が放送します。（坂井貴司 沖縄連帯ひろばさんの FB）
「沖縄が燃えた夜～コザ騒動 50 年後の告白～」（NHK.jp）2 月 20 日
……事件は、基地の島で生存権を脅かされてきた人々の怒りが爆発した「反米騒動」といわれてきた。当時、６０枚の現場写真を撮ったカメラマン吉岡攻は、50 年後の今年、再び現場を訪ねた。あの夜、騒動に加わった人々、裁判で罪を償った人がその心情を初めて告白した。コザ騒動の真実とは何だったのか―　（NHK オンデマンドで視聴可）

12/14 草津は温泉でなく女性差別で国際的に有名になったようだ
日本は「性差別や不平等が蔓延」。草津町議リコールで、海外メディアの報道続く。（HUFFPOST）12 月 10 日
セクハラ告発が批判されリコールされた草津町議の問題。CNN やニューヨークタイムズも報道し、日本社会の問題を浮き彫りにする現象として扱われている……https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5.....

12 月 10 日
正義連　第 1469 回日本軍性奴隷制問題解決のための定期水曜集会　週間報告（日本軍「慰安婦」問題行動）12 月 9 日
今週、「2000 年女性国際戦犯法廷」が開かれて 20 年になります。「2000 年女性国際戦犯法廷」は 2000 年 12 月 7 日の開幕式をスタートに 12 月 12 日まで 6 日間にわたって日本の東京九段会館で開催されました……
http://www.restoringhonor1000.info/2020/12/1469.……

「一票で変える女たちの会」かわら版

★印刷版をご希望の方は左記ＦＡＸ、メール、ホームページの問合せ欄からご連絡ください。

★投稿大歓迎！

　コロナ禍の中の暮らし、本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見、なんでもお寄せください。（一本について四〇〇字～一六〇〇字）

宛先：1pyodekaeru@gmail.com

郵便：〒 162-0823

東京都新宿区神楽河岸1の1

東京ボランティア・市民活動センター

　メールボックス No. 45

FAX：03-5684-1412

mail: 1pyodekaeru@gmail.com

HP: https://1pyo-de-kaeru.com

★カンパのお願い

私たちの活動に賛同する皆さん、ぜひカンパを！

郵便振替口座：

記号番号　00110-6-420003

口座名称　一票で変える女たちの会

イッピョウデカエルオンナタチノカイ

銀行等から振り込む場合：

店名（店番）　〇一九（ゼロイチキュウ）店　(019)

預金種目　当座

口座番号　0420003